

2024年度 第3回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 2024年12月6日(金)9時00分～12時00分
2. 場所 京都工芸繊維大学 東1号館501演習室
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 金尾伊織 (主査), 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季
田川浩, 中澤祥二, 松井良太, 城戸將江 (記録), 三井和也 (オブザーバー)
(敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

- 03_00 第2回座屈小委員会議事録 (城戸)
- 03_01_1～4 2025-座屈小委員会廃止・設置申請, 活動計画, WG廃止申請書 (金尾)
- 02_03_1～2 国際連携WG_報告, 国際連携WG (案) _2024年度第1回進捗報告 (倉田)
- 02_03_1～4 4章梁材-本文, 解説 (金尾)

5. 議事内容

資料03-01

- ・資料03-01に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された。

資料03-02

- ・2024年度で設置期間が満了となるため廃止申請を提出し, 2025年度からの設置申請を提出したことを説明した。また, 委員に入れ替わりがあることを説明し, 2025年度から新たな委員として, 三井和也先生 (東京科学大学) に参加頂くことを確認した。
- ・2025年度からの4年間の活動計画では, 2028年度に指針改定を目指して作業を進めることを確認した。
- ・国際連携WGは, 英語版出版の道筋を付けられたことから, 廃止申請を提出したことを説明した。

資料03-03

- ・国際連携WG倉田主査, 松井幹事より, 英文化の作業の進捗を報告頂いた。
- ・SSRC側からの査読報告は11月に全章を受け取り, 現在, 査読回答対応中である。SSRC側からは, 好意的な意見を得られているという報告があった。
- ・本学会出版の他の指針との語彙の統一ができていないことから, 鋼構造設計規準や鋼構造接合部設計指針の翻訳をした際にまとめた対訳表に照らして, 全章を12月中に再度チェックし, その後, SSRC側に査読回答と原稿を返却する予定である。
- ・語彙の統一作業後, 岡崎先生, 佐藤先生へ査読を改めてお願いする。
- ・今後の予定
 - 12月中 修正原稿完成
 - 1～3月 鋼構造運営委員会査読
 - 4～5月 鋼構造運営委員会査読完了
 - 5～6月 構造本員会査読開始
- 2025年度中の発行を目指す

資料03-04

- ・4章梁材の本文案, 解説案について議論した。

- ・本文はできるだけシンプルにし、よく使う式のみを記述する。解説に、実務に応用できるより高度な内容をまとめる。幾つかある評価式の比較や、現行基準との比較、これらの根拠資料など、実務的にも活用してもらう内容を盛り込む。
- ・現行の座屈設計指針では、設計規準式がなく、座屈荷重や補剛の理論的な話がまとめられている。これらの内容は解説で書くこととし、本文では、一般的に使用されている式を示す。
- ・解説のまとめ方が煩雑にならないよう、読みやすく使いやすいまとめ方とする。
- ・4章のまとめ方について議論を進め、執筆方針を明確にした上で、他の章をまとめていくことが必要であることを確認した。

次回委員会に向けて

- ・本日の議論を踏まえて、4章梁の原稿たたき台を作成する。原稿ができ次第回覧し、その上で、部材（柱、ブレース、板）のたたき台を作成する。場合によっては、手戻りが無いよう、オンラインなどで方針を確認しながら進める。

6. 次回小委員会予定

日時：2025年3月で日程調整する。

場所：対面あるいはハイブリッド